

温かいパンの一切れを分かち合おう

「餓えた人々に温かいパンの一切れを分かち合おうとする真心だけが、励みであり、信ずるに足ることです。生殺与奪の権を握る自然の大河は、轟轟と流れ、真っ白な水しぶきをあげて岩に砕け散る。それが何かを語るようです。人を欺かぬメッセージに耳を傾けます。良いクリスマスと新年をお迎え下さい。」

——中村 哲 (ペシャワール会報114号、2012年)

ドクターサーブ中村は心の支え

——堅実に進むPMS事業

PMS (ピース・ジャパン・メディカル・サービス) 副院長/ジャララバード事務所所長 ジアウルラフマン

皆さま、お元気で過ごすごでしょうか。いつも私たちをお支え頂き、心から感謝申し上げます。

今月はドクターサーブ中村の亡くなられた日を迎えます。

今日はドクターサーブに現在のPMSの活動をご報告するとともに、どんな状況にあっても変わらず私たちアフガン人を支援して下さっている日本の皆さまへのご報告とさせて頂きたく存じます。

用水路建設完工と新規事業の始まり

まず大きな出来事として、ドクターサーブがPMS職員に、調査から設計、建設、施工管理まですべてを自分たちでやるようにと指示されていた「バルカシコート堰・用水路の建設」を、計画通り九月末に無事終えました。着工寸前にドクターサーブが突然いらっしやらなくなりましたので、PMSは初めて文字通り自分たちだけで取り組

みました。日本側では技術支援チームが結成され、私たち、特にPMSの技術者たちへ様々なアドバイスをしてくれました。

昨年八月の政変時には我々も他のNGO、企業、国連と同様に活動資金が銀行から引き出せなくなり、さらにアフガンへの送金を各国の銀行が停止したため、灌漑事業は二カ月間進めることができなくなりました。私たちはガンベリ農場の収穫物からの収入を重機の燃料費に充て、防風林の樹木を伐採し、材木や薪として売却。何とか資金を工面して工期限内に完工することが出来ました。

去る十月五日に開催された完工式にはバルカシコートの村人はもちろん、州政府からは経済・農業灌漑局の役人などの出席もあり、喜びを分かちあいました。

次に、十月に着工した新規灌漑事業について報告いたします。ナンガラハル州南部のコット郡バラコット地区で、スピングル



山脈を水源とするコット川とその周辺の湧水から水を引く用水路建設計画です。灌漑地は約一二〇〇〜四五〇ヘクタールが見込まれ、幅一・五m、全長約四・三kmの小規模な用水路が建設されます。

この地は二〇一六年、戦争でほとんどの家屋と農地が破壊され、村民は難民化を余儀なくされました。戦いが収まったところ村に戻り、家を造り直し、荒野と化した畑を耕してはみたものの、うまくいきません。さ

らに、行き場のない人が増えて農地に家を建てざるを得ず、耕作が難しくなっていました。

PMSはこの惨状をみて彼らの所有する荒地を灌漑する計画を立案し、日本側と協議を重ね、この度着工の運びとなったのです。この計画を喜んだのはコット郡の住民だけではないようで、十月十六日の起工式にはナンガラハル州から副知事をはじめ関係各局の代表たちも出席しました。

工事に関しては、現在取水堰や用水路建設現場までの交通路を敷設中です。現場は斜面で勾配が厳しい場所もありますので、安全に充分留意しながら進めています。

大洪水

今年は、八月に大洪水が発生しました。アフガニスタン二十数州での豪雨のみならず、熱波による氷河の融解も原因と言われています。

クナール河とカブール河の水位が信じられないほど上昇しました。政府の報告書によるとクナール河の流量が毎秒一九五〇m³にもなったとのこと。しかし、PMSが建設したどの堰も機能が保たれ、洪水の後に必要な水量が取水できており、あらためて斜め堰の素晴らしさに驚きました。河の水が引いた冬期に各堰を観察し、修復工事を始める予定です。

護岸堤ではカシコート、マルワリードII、ミラーン及びベスードの河岸で洗掘が発生、石出し水制が流失したところもありました。いずれも改修工事を早急に開始しています。

ダラエヌール診療所

大洪水に伴い、ダラエヌール診療所では、水溶性の下痢患者が通常の二倍以上に増加しコレラの発生を心配しました。検査キットが手に入らないため都市部の病院へ移送しましたが、コレラではありませんでした。いつコレラが発生しても応急処置ができるよう、点滴等を多めに備えました。十月に入り、診療所では下痢患者が減少してきましたので一安心です。

ナンガラハル州南部のシンワリ地方の三地区ではコレラが流行しましたが、政府が早急に北欧などの支援団体の協力のもと、医療チームを派遣して治療に取り組みました。パクティカやパクティア、クンドウース、タハール各州でも発生しましたが、現在は落ち着いています。

PMSの診療所では近年助産師と助手、妊産婦の家族の協力で診療所内での出産が可能になってきました。助産師とその助手は来院する女性患者たちの相談にも応じており、心強い存在となっています。

昨年はコロナウイルスのデルタ株が蔓延し、我々の診療所に呼吸困難を訴える患者



8月の大洪水で巨礫の移動が見られるが、機能を保っているバルカシコート堰。(2022年11月5日)

が押し寄せていましたが、今では感染疑いの症例は減少しています。政府によるワクチン接種が継続され、診療所の管轄地域では全住民が接種したことが功を奏したと考えられます。

ガンベリ農場

—— サツマイモやナツメヤシの収穫

農業部門では、昨年入職した五人の青年たちも熱心に業務に励んでいます。ガンベリ地区の長老たちとの会合も毎月開催されています。同地区の農業は豪雨と洪水から守られました。周辺住民は洪水の被害を受

けました。

農場では十月に米の収穫を終え、約四〇ヘクタールに小麦の種を蒔く準備をしています。

二〇一七年にドクターサーブ中村が日本大使館からの草の根無償支援で栽培を始めたナツメヤシの初収穫が叶い、現在農場事務所で乾燥させています。職員や作業員たちと食べる予定です。本格的な収穫が見込める来年からは出荷する計画です。

また、今年干ばつ下の救荒作物としてサツマイモの試験栽培を行なっています。十月末に立派な芋が収穫され、農場で火を焚き焼いて食べました。作業員たちはツルを自分の村でも植えており、彼らの口に合えばサツマイモが広がるのは案外早いのではないかと期待しています。

九月から始まった柑橘類の収穫は来年二月頃まで続きます。このほか、農場では養蜂や畜産もドクターサーブ中村がいらっしやった時と同じように継続しております。

ジャララバードのPMS事務所について

最後になりましたが、我々の事務所についてのご報告です。

私たちはドクターサーブ中村と築き上げた通り、医療、灌漑、農業の三事業がスムーズに進められるよう日々努めています。幾つかの例をあげます。

各事業地への燃料（発電機や重機、ワークショップなどで使用）配給は、燃料を管理するチームが事務所から現場へ運び、使用量を確認して給油を行います。同時に、現場に問題はないか、改善点はないかなど、様々な情報を収集し、事務所へ持ち帰りまします。また、活動地域で雇っている作業員の数や作業内容の確認を毎日行ない記録します。この記録は日本へも報告されます。

各現場に必要な資機材の見積り、購入、運送までの一連の作業や、銀行からの出金換金、作業員への労賃の支払い準備などもあります。これらの部署では特に問題なく、担当の職員たちが注意深く進めています。我々事務所の重要な役割の一つとして、活動の月間報告書をまとめ、州政府の関係局に提出することが挙げられます。毎月滞りなく提出するよう努力しています。

最近では、カプールの経済省に向き、以下の三つの手続きを済ませました。

- ① 前政権から承認を得ていた二〇二一年～二〇二三年までのPMSの事業予算書を提出。現政府の承認を受ける。
- ② PMSの「マルワリード堰・用水路改修計画」の工期を一年延期する許可を得た。これは、今年の大洪水を受け、堰や護岸の修復工事に時間を割く必要があるためです。
- ③ ②に伴い、堰・用水路の維持管理の予

算修正を申請。

昨年八月の政変以降も政府との関係は良好です。また活動地ではPMSと住民との月一回の協議が継続されており、現在トラブルもなく良好な関係が維持されています。

ドクターサーブ中村広場の完成

ジャララバード市内にドクターサーブ中村の記念碑が建立され、広場が造られました。州政府から「PMSが気に入っている

ドクターサーブの写真を二枚欲しい」との連絡を受けて届けました。まさか手渡した写真があのように大きく、それも両面に掲げられるとは思っておらず、本当に驚きました。十月十一日のオープニングセレモニーにはPMSも招かれ、数名が出席しました。記念碑はPMSの活動地へ往き来する時に必ず通過する場所に造られたので、我々は毎日ドクターサーブを目にし、ご挨拶できるわけです。ガンベリ公園の記念塔と共に、

この記念碑を見るアフガンの多くの人々は、ドクターサーブのお働きを想い、それが心の支えになっているように感じています。全般的にナンガラハル州の治安は良好ですが、昨年来の米国による経済制裁は解かれず、雇用機会もなく、銀行機能も未だに不十分で、日々物価が高騰し、アフガンの人々は苦しんでいます。皆さまのご支援にPMS一同、心からの感謝を申し上げます。